

富山経協



カンツバキ (解説・18ページ)

CONTENTS

- 2 東部地区会員懇談会 (報告)
- 2 新会員の紹介
- 3 東部地区会員懇談会 講演要旨
「北陸、富山県の地域経済の現状と課題について」
- 4 TOP INTERVIEW
秀愛会 澤田和秀理事長
- 6 事業活動報告
- 7 委員会活動
- 8 会員の動き
- 11 講座・セミナー
- 12 参加者NOTES
- 16 見学会
- 19 景況指標
- 20 おしらせ・事業予定

東部地区会員懇談会



11月13日(金)、ホテルグランミラージュにおいて会員企業から103名が参加して、東部地区会員懇談会を開催した。

第1部では、財務省北陸財務局長の吉岡健一郎氏を招き、「北陸新幹線開業を追い風に！北陸、富山県の地域経済の現状と課題について」と題して講演いただいた。

第2部の懇親会では、東部地区担当米屋副会長が開会の挨拶をし、井上副会長が乾杯を行い、懇親会に入った。公務多忙の中、出席いただいた石井県知事から「新幹線開通は観光面で大きな成果となっている。開通からの8か月で東京方面からの訪問者が3.06倍となった。宿泊も好調に推移しており、今後とも持続できるよう観光振興に力を入れていく。また県の屋台骨は、ものづくり、製造業であり、安倍政権の看板施策の1つでもある地方創生戦略に基づく税制優遇措置などを大いに活用して企業の皆さんの努力に報いていきたい」と挨拶いただき、懇親の輪に入られた。

中締めには先立ち、今秋旭日単光章を受賞された、ホクトミ運輸(株)会長澤飯光稔氏が紹介され、栄誉を称えた。稲垣会長から「我々の生活の基盤である産業を支える労働人口の減少は、あらゆる面で影響が懸念されるだけに、これからどのような方法で生産性を維持、向上させていくか真剣に考えていかなければならない。富山県では女性の就業率は大変高



米屋副会長



井上副会長



石井知事



稲垣会長

く、女性の活躍にますます大きな期待が寄せられている。我々経営者もこのことを十分理解し、ともに努力していかなければならない」と中締めし、散会した。

叙勲

藍綬褒章

株式会社富山銀行
代表取締役頭取 齊藤 栄吉 氏

旭日単光章

ホクトミ運輸株式会社
代表取締役会長 澤飯 光稔 氏

新会員の紹介

(50音順)

■ 株式会社 タイセー

所在地 砺波市東保616-1
代表者 代表取締役 長久 正一
設立 1990(平成2)年5月
資本金 500万円
従業員 49名
事業内容 自動車部品製造業



■ 北越商工株式会社

所在地 高岡市石瀬853-3
代表者 代表取締役 野上 環公
設立 1982(昭和57)年
資本金 1,000万円
従業員 15名
事業内容 機械器具卸売業



北陸新幹線開業を追い風に！ 「北陸、富山県の地域経済の 現状と課題について」

財務省
北陸財務局長 吉岡 健一郎 氏



1 人口

日本はかつて無い少子高齢化社会に向かっています。富山県の人口は約106万。10年間で4万人以上減少しています。平成22年の国勢調査結果によると、富山県の人口構成は、もっとも多いのが65～69歳、次に40～44歳。20～24歳あたりが減っています。就職、進学により東京をはじめとした他地域に転出して、次世代の担い手が少ない。ここに課題があります。

富山県はものづくりが集積しているほか、災害リスクが低い、また労働力や土地などの豊富な経営資源がある中、今回のように北陸新幹線開業の効果が加わり、他地域からの企業進出などの動きがあります。また、大型商業施設開業による波及効果、こういったこともあって、今後は転入増加になることが期待されます。

2. 人口減少時代における

企業活力の維持・拡大について

富山県の産業別就業者数の構成比は、製造業が24.6%、サービス業は32.9%。付加価値額は、製造業が32.3%、卸小売業が16.8%、運輸業が5.6%と、これらの業種は就業者数に比べて付加価値額産出力が高くなっています。

産業別就業者数の平成17年から22年にかけての増減率は、医療・福祉が14.7%増、宿泊・飲食が12.8%増。しかし、農業・林業が23.4%減。漁業が16.9%減、建設業が15.2%減、製造業も6.8%の減

少。富山県の強みである製造業の就業者数が減少していることについて、今後とも注視していく必要があると考えます。

<女性の活用・登用>

平成24年の有業率を見ますと、北陸地域が全国トップの76.6%。ちなみに富山県は76.7%。また、女性の有業率についても北陸地域が全国トップの70.4%。富山県は70%となっております。

しかしながら、北陸地域の管理職の女性比率は全国でもっとも低く10%。富山県でも11.1%。有業率は高いが、管理職の比率が低い。女性の力が十分発揮されているとは言いがたいかと思われます。

女性の年齢階級別有業率、いわゆるM字カーブについて見てみると、子育て世代に、有業率と潜在的労働力率（就業希望）にギャップがあります。女性の就業希望を実現し、労働力を確保するために短時間勤務制度の導入や、延長保育に対する助成、こういった仕事と家事・育児を両立できる環境整備が必要になると考えます。

また、管理職比率が低いのは換言すれば、女性の登用による活性化が期待できる地域と言え、女性活躍の取り組みの広がりによる労働生産性の向上が期待されます。

<進学、就職状況>

富山県の高校から県外の大学への進学率は81.8%。進学した者の多くが東京圏などの大都市圏に転出し、その後、就職していくとい

う状況にあります。

今後、日本全国で地方創生の取り組みが活発になり、地域間の人材獲得競争が進むと思われます。いかにして地元呼び戻すことができるのか。高度人材と地元企業とのマッチングなど、産学官の連携によって新卒者の人材確保が大きな課題となってきます。

3. 労働生産性

富山県の労働生産性は約600万円と全国10番目ですが、全国平均よりも低いです。労働生産性の向上については企業の自立化と、自立化による収益力の向上、ブランド力の付加価値を高める商品力の差別化、これが肝要です。今後、自社技術のさらなる向上による自立化、市場化、企業集積や連携による新たな技術創出のほか、女性の登用による市場開拓、これが期待される所です。

また、第3次産業では北陸新幹線開業に伴うサービス需要の増加も1つの契機になって、業務工程の見直し、改善を不断に行う必要があるほか、女性の登用・活用によるきめ細かなおもてなしの向上も期待されます。

おわりに

北陸、富山県には豊かな自然や伝統文化のほか、優れた伝統技術に培われたものづくりの産業集積があり、加えて労働力、土地、電力・水といったエネルギーなど、恵まれた資源があります。こういった資源を有効活用し、地域での生涯における生活コストなどを示して、定住メリットや魅力についてPRしていくことが大事です。今後も、生産性の向上と労働力の確保に取り組み、女性の活躍をはじめ、地方創生の議論が活発に行われ、地方創生の取り組みが加速されますことを期待しています。

させていただくの意識改革 地域のトータルケアめざす

社会福祉法人 秀愛会
理事長

澤田 和秀 氏



法人設立の経緯を教えてください。

創設者である父は、妹が障害を持っていたことから、会社役員を退任後、1997年に法人認可を受けて、翌年に県内初の民間の重症心身障害児(者)施設(重心施設)「あゆみの郷」を開設しました。私は2000年に総務部長として入りました。

最初はどんな印象でしたか。

初めは重度の障害の方はどう接

すれば良いのか見当も付きませんでした。それまで従事していたサービス業とは全く別の仕事だと思っていたのですが、間違いでした。

私だけでなく職員も「介護は困っている人にやってあげるもの」の意識があったと思います。しかし半年ほどして、職業としている以上はきちんとしたサービス精神を持たなくてはいけない、「やってあげる介護」から「させていた

だく介護]であるべきと気がつき、職員にもサービスの意識を高めるよう、教育することにしました。どのように意識改革されましたか。

当時も職員は一生懸命介護していたのですが、例えば食事の介助なら、食べさせてあげる「残さず食べなさい」となりますが、お客様へのサービスと捉えて「美味しく食べようね」と意識を変える。こうしたことを3年程かけて根付かせました。具体的には、私の考えを話しましたし、外部の研修にも積極的に行かせました。福祉関係だけでなく、銀行や経営者協会の新人研修なども受けて、異業種の人と交わることでだんだん意識が変わっていったと思います。

そして、組織でのサービスの充実を考え、制度も変えました。人事考課を入れて、給与体系や昇級制度を考えたのですが、当時の社会福祉法人で人事考課を取り入れているところはほとんどなかったと思います。ひな形がなく、前の会社での経験を参考にしました。営業、人事、経理と色々やらせてもらったことが役に立ちました。

—多様な介護、保育に対応—

2004年にはケアハウス事業を開始されました。

週末になると、ご家族が障害児を自宅へ連れて帰るのですが、親御さんが高齢化すると自宅での介護が大変になってくる。さらには遠方から訪問することすら難しくなる。県内だけでなく、重心施設のない岐阜県からの利用者もいました。

施設には家族介護室があったのですが、近くに住みたいという要望を受けて、高齢者向けの健康な介護認定のない方でも入居できるケアハウスを始めました。

2008年からは大沢野ちゅうおう保育園(現・こども園)の経営もされています。

女性中心の職場なので、以前から事業所内保育を考えていたのですが、近くの保育園が民営化されると聞いて手を挙げました。地域から子供の施設がなくなると、地域文化の崩壊につながる懸念もありました。最初は児童数も減少していましたが、障害児施設もやっているということから発達気になる子の受け入れを積極的に行うことにより子供が集まるようになり、今年初めて定員に達しました。地域の人から安心して預けられる保育園と認められたことだと思っています。

2010年には重心施設を増床され、リハビリ室も設置されています。

最初の10年は施設を運営することで精一杯でしたが、少し余裕ができ、また職員の意識も変わってきた中で、リハビリに力を入れたいという意見が出てきました。重症児の障害を進行させないようにしたい、障害者が力強く生きていくことをお手伝いできればと考え、施設の増床を機にリハビリテーション室を作り、さらに生活介護(重度障害の在宅)サービスとしてデイサービスも始めました。

現在は軽度の障害者の就労支援も行っており、竹の炭を焼いたり外構清掃などをする多機能事業所

「ステップ」と、農業を行う就労支援事業所「ハーベスト」を設置しています。ハーベストでは地域の耕作放棄地の問題にも取り組んでいます。

—夢を持っていただく—

立山山麓で新しい取り組みを始められると聞いています。

今、車中泊をしながら自動車旅行を楽しむ人が増えていますが、来年から、らいちょうパレースキー場の空き施設で、車旅のサポート事業を始めます。

従来の障害者就労は内職的な単純作業のイメージがありますが、サービス業として一般のお客様と触れ合うことで、閉鎖的な世界から抜け出すきっかけになるし、一般の人から認知してもらえるのではないかと思います。同時に、サポートする職員も一般の人との繋がりができればいいと考えます。私自身もかつてアルペンルートやスキー場運営に関わっていたので、山間地域の過疎対策に役立つことができらうれしいです。

介護・福祉はどうあるべきでしょうか。

これまでのように大型施設ばかりでは一人一人に目が届かないし、現在強化されている在宅介護も、仕組みが整っていない地方では無理があります。過疎地域の少人数の福祉には高齢者や障害児が一緒

に過ごす富山型のデイサービス、町の中ではある程度の収容ができる施設と、地域のニーズに沿った福祉が必要です。高齢化が進む一方、共働きで子供を預けなくてはいけないなど、課題も複雑化しています。福祉の現場は専門職でありながら、色々な知識とスキルが求められていくと考えています。秀愛会ではどうされていますか。

正職員には施設間の人事異動を行っています。介護士、看護師、保育士など、福祉の現場は専門の知識と技術が必要ですが、地域の色々なニーズを考えて柔軟なサービス提供ができるようにしていかなければいけないと思っています。

最初に組織改革したことによって今の展開にスムーズに移行できました。今後、新しい地域ニーズが出てきたときに、「やってみたい」と手を挙げてくれる人材の育成を目指しています。

好きな言葉を教えてください。

数年前、「夢なき者に理想なし、理想なき者に計画なし、計画なき者に実行なし、実行なき者に成功なし。故に、夢なき者に成功なし」という吉田松陰の言葉に出会いました。職員には地域が必要とするプロとしての仕事に誇りを持ってもらい、障害者に夢を持ってもらえるサービスを提供していきます。

法人概要

社会福祉法人 秀愛会

設立：1997(平成9)年7月
所在地：富山市稲代1023
従業員数：150名(2015年11月現在)
事業活動収入：8億7,720万円(2015年3月期)
運営施設：障害児入所施設・療養介護施設「あゆみの郷」、高齢者用ケアハウス「そよかぜの郷」、「大沢野ちゅうおうこども園」、多機能事業所「ステップ」、就労支援事業所「ハーベスト」
URL：<http://www.ayumi-toyama.jp>

略歴

1962(昭和37)年9月生まれ。富山市出身。日本大学法学部卒業後、富山地方鉄道(株)勤務を経て、2000年社会福祉法人富山愛幸同友会(現秀愛会)入職。'02年理事、'04年常務理事、2010年から理事長就任。現在、全国社会福祉法人経営者協議会協議員を務める。



事業活動報告

2015年 10月9日～12月15日

	事業名	委員会名	開催日	場所	参加者数
会 議	教育委員会「定例委員会」	教 育	11月 6日(金)	富山経協・研修室A	11名
	労働法関連法制研究部会(第3回)	人事・労務政策	11月18日(水)	富山経協・研修室A	10名
	人事・労務政策委員会「幹事会」	人事・労務政策	11月25日(水)	富山経協・研修室B	8名
	環境委員会「定例委員会」	環 境	12月 1日(火)	富山経協・研修室A	16名
	品質管理委員会「定例委員会」	品質管理	12月 3日(木)	富山経協・研修室A	15名
	教育委員会「定例委員会」	教 育	12月 4日(金)	富山経協・研修室A	18名
	総務交流委員会「定例委員会」	総務交流	12月 8日(火)	富山電気ビル	15名
	人事・労務政策委員会「定例委員会」	人事・労務政策	12月 9日(水)	富山県民会館 8階	21名
	経営企画・IT委員会「定例委員会」	経営企画・IT	12月 9日(水)	富山県民会館 8階	7名
会 員 交 流	環境保全活動	環 境	10月17日(土)	白樺平	15名
	婚活支援事業	総務交流	10月31日(土)	地鉄ゴールデンボウル・富山電気ビル	32名
	東部地区会員懇談会		11月13日(金)	ホテルグランミラージュ	103名
	会員交流ボウリング大会	総務交流	11月18日(水)	地鉄ゴールデンボウル	112名
講演会	「北陸、富山県の地域経済の現状と課題について」		11月13日(金)	ホテルグランミラージュ	103名
見 学 会	県外企業見学研修会	品質管理	10月21～22日(水～木)	(株)デンソー本社他	19名
	情報交換会「先端企業見学会」	環 境	10月28日(水)	(株)富山環境整備	24名
	県外企業見学研修会	環 境	11月25～26日(水～木)	福井鋳螺(株)・セーレン(株)	8名
講 座 ・ セ ミ ナ ー	若手社員活性化コース	教 育	10月14日(水)	富山商工会議所ビル	49名
	実践しながら学ぶ統計的手法活用講座	品質管理	10月15日・29日(木) 11月12日・26日(木)	富山経協・研修室A	18名
	管理職マネジメント研修	教 育	10月15日(木) 11月12日(木) 12月10日(木)	富山県農業総合研修所	26名
	事務間接部門の効率的な業務改善の進め方	教 育	10月21日(水)	富山商工会議所ビル	31名
	労務管理実務講座	人事・労務政策	10月14日(水)・22日(木) 11月5日(木)・11日(水)・19日(木)	富山経協・研修室A	24名
	管理職基礎コース	教 育	11月 6～ 7日(金～土)	インテック大山研修センター	46名
	ISO9001内部監査員養成講座	品質管理	11月10・11日(火・水)	富山県市町村会館	60名
	コスト改善力実践セミナー	教 育	11月10日(火)	富山商工会議所ビル	23名
	経理・財務の基礎セミナー	教 育	11月17日(火)	富山商工会議所ビル	31名
	第3回労働法実務講座	人事・労務政策	11月18日(水)	富山商工会議所ビル	34名
「5S+目で見える管理」活動実践セミナー	教 育	12月 3日(木)	富山商工会議所ビル	54名	

総務交流委員会

■定例委員会

12月8日(火)、武内委員長はじめ委員15名が出席して、富山電気ビルディングにおいて開催した。

第1部として、公正取引委員会中部事務所の大貫所長をお迎えし、「公正取引委員会と有識者との意見交換会」を実施した。大貫所長から公正取引委員会の役割や活動状況、独占禁止法・下請法など関係法令について説明があり、その後、意見交換を行った。

第2部の定例委員会では、事務局より2015年度事業活動について、

定例委員会、調査活動、委員会事業(会員交流事業)の実施状況を、評価と反省を含めて報告した。

2016年度事業活動計画(案)については、①「年度事業活動のご案内」を総務交流委員会で審査承認し、会員企業へ情報提供する。②定例委員会の活性化を図る。③定期調査、経営課題調査の継続実施。④会員交流事業の継続実施。⑤役員・委員企業見学会の開催。審議の中での指示事項として、賃金改定調査の中間報告時期を早める等、タイムリーな情報提供に努めるこ



と。婚活支援事業は、継続することが重要であり、参加者のアンケート結果を参考として次回開催につなげる事等が要望された。2016年度の事業活動計画(案)は、指示事項を踏まえることとして承認された。

■婚活支援事業

10月31日(土)、富山地铁ゴールデンボウルと富山電気ビルディングにおいて、昨年度から通算して第4回目の婚活支援事業「ボウリング&ランチパーティ」を会員企業の社員限定、32名(男性15・女性17)の参加者を得て開催した。

第1部のボウリングでは、男女4~5人チーム7レーンで開催。2ゲーム目は男性がレーンを移動して実施。最初はぎこちない様子だったが、ゲームが進むにつれてレーンによってはハイタッチが見られるなど、ますますの雰囲気だった。

第2部はアルコール無しのランチパーティで、落ち着いた雰囲気。積極的にアプローチカードを活用する男性や、女性同士で意気投合し、アプローチカードを交換している姿も見受けられた。参加者はボウリングとランチを楽しみながら、素敵な時間を過ごしていた。

■会員交流ボウリング大会

11月18日(水)、富山地铁ゴールデンボウルにおいて開催した。平日の夕刻にもかかわらず、28チーム112名の参加者を迎えることができた。

総務交流委員会委員の日本カーボン(株)富山工場常務取締役工場長山崎裕功氏による始球式の後、一斉に競技が開始され、各チーム和気あいあいとした雰囲気の中で熱戦が繰り広げられた。

今回は1フレーム毎に左右のレーンで交互に投球する「アメリカン方式」を採用したため、今まで

以上に隣レーンのチームとの交流が深まり、ストライクやスピアの際のハイタッチが随所に見られ、大きな歓声がホールに響き渡った。

ゲームは1チーム4人の2ゲーム合計スコアで競う団体の部と、各人の2ゲーム合計スコアで競う個人の部で行われたが、女性と男女問わず65歳以上には1ゲーム20ピンのハンデを適用した。

主な成績は下記の通り。団体の部は武内プレス工業(株)チームが優勝。同チームは昨年が準優勝だったが見事雪辱を晴らしての優勝だったため、喜びもひとしおのよう

であった。個人の部は富山電気ビルディング(株)の栗原一男さんが優勝した。表彰式では、自社参加チームの応援に駆けつけた総務交流委員会副委員長の北日本放送(株)取締役社長室長 島谷浩司氏にプレゼンターを務めていただいた。



団体の部優勝の武内プレス工業(株)チーム

<上位成績>

(団体の部)	会社名	合計スコア	(個人の部)	氏名	合計スコア
優勝	武内プレス工業(株)	1,310	優勝	栗原 一男 (富山電気ビルディング)	399
準優勝	富山電気ビルディング(株)	1,234	準優勝	川西 沙織 (廣貫堂)	390
3位	(株)廣貫堂	1,230	3位	筒口 哲也 (武内プレス工業)	379

人事・労務政策委員会

■ 幹事会

11月25日(水)、笠井委員長はじめ副委員長、幹事8名が出席し、富山経協・研修室Bで開催した。

2015年度事業活動報告、今後の事業予定として、2月19日開催予定の定例委員会では、次年度の採用開始期の再変更にどのように対応するかについて、今年度5月に実施した県内大学等の採用担当者との情報交換会を前倒しで行う。3月9日に県との共催で、三井ロ

ジスティックパートナーズ代表取締役社長 川島高久氏を招き、女性活躍推進法の4月1日施行を視野に、「イクボス研修会」を開催する。

2016年度事業活動計画(案)として、5月定例委員会では、行政の企業に対する支援策等の解説、説明会を開催する。

また次期定例委員会までには、人事・労務管理セミナーの2講座について具体的な案を構築するこ



と。女性活躍推進法に対応した施策を検討することを決定した。

■ 定例委員会

12月9日(水)、笠井委員長、高田副委員長はじめ21名が出席し、県民会館8階バンケットホールで開催した。

はじめに、(一財)海外職業訓練協会・O V T A国際アドバイザー 福喜多俊夫氏が、「海外進出先でのリスク回避」と題して、①中国における日系企業が抱える経営課題、②現地の労働市場特性と人材マネジメント、③日本人が誤解しがちな中国労働市場と就労観、④中国現地法人の問題解決のスキームについて講演した。

次に、2015年度事業活動報告と今後の実施予定事業活動について、2月19日開催の定例委員会では、「大学等との採用に関する情報交換会」を議題とし、北陸産業活性化センターが実施した「学生・企業若手社員・学校への就職に関するアンケート結果報告」の講演を行う。2016年度事業活動計画(案)について、5月定例委員会では「行政との情報交換会」、8月定例委員会では「経団連との情報交換会」を行う。人事・労務管理セミナーについては、幹事からの要望を取りまとめ、4月に「ストレ



スチェックを活用したメンタルゼロ対策」、10月に「時代の変化に対応した賃金制度」と題して実施する。研究部会は、今年度2月開催の定例委員会までに次年度実施の有無、実施の場合の課題について決定する。

会員の動き

(50音順) (敬称略)

■ 役職位の変更

佐藤工業株式会社 北陸支店

執行役員支店長 金子 政史 (前:支店長)

鈴木工業株式会社

代表取締役会長 杉谷 裕次 (前:代表取締役社長)

東洋通信工業株式会社

代表取締役会長 山口 正志 (前:代表取締役社長)

■ 社名の変更

北陸トナミ運輸株式会社

旧呉西トナミ運輸株式会社

■ 所在地変更

社会福祉法人 わかば福祉会

富山市八尾町新田236-2

教育委員会

■ 定例委員会

11月6日(金)、金岡委員長、松原副委員長はじめ11名が出席して、富山経協・研修室Aで開催した。

金岡委員長挨拶の後、2015年度活動報告として、①定例委員会は5月と8月に実施し、今回と12月を合わせ計4回実施する。②研究部会は、5月、6月(コーセル株)、7月(株不二越)計3回実施。今後、11月9日(月)に(株)池田模範堂、同17日(火)にYKK(株)で実施し、併せて5回実施する。「新入社員・若手社員の育成」については今年度で終了し、報告書に取りまとめる。③講座・セミナー事業は、す

べての講座で実施しているアンケートを元に事務局で評価書を作成している。11月6日現在、12講座・セミナーを開催済み。定員未達が2講座あるものの、9講座は定員を上回り評価もよく、おおむね順調。今後実施予定の講座の中には、昨年定員未達のものもあり、見極めが必要な講座もある。

次に、2016年度活動・事業(案)について、①委員会活動は次年度から、定例委員会は5月、8月、12月、2月とする。②研究部会は、経営者協会で実施する教育研修の充実を図り、一層の会員サービスを行うために研修の分野、あり方



などを研究する。③講座・セミナー事業は、非製造業(サービス業)向けの講座を開催する。新入社員研修については、事前に採用数を把握するなど、きめ細かい対応を心がけるとし、研究部会活動、講座・セミナー事業については、12月定例委員会において審議し決定することとした。

■ 定例委員会

12月4日(金)、金岡委員長、松原副委員長はじめ18名が出席し、富山経協・研修室Aで開催した。

金岡委員長の挨拶の後、2015年度事業活動報告として、定例委員会は4回、「新入社員・若手社員育成～自ら考える社員を育てる～」研究部会は5回開催。研究部会活動報告では、昨年度実施した

アンケート、今年度実施した5社の教育・研修制度見学研修会を取りまとめ、小冊子を発行する。講座セミナー事業は、階層別研修は募集定員を上回る応募があったが、職能別研修では一部に定員を下回るものもあった。非製造業に対する講座は、次年度の懸案とする。

2016年度事業活動計画案について、定例委員会は4回とするが、

11月開催分を2月に変更する。次年度の研究部会のテーマは「会員企業の社員教育、社員の資質向上の一助となる講座・セミナーの構築」とし、今期中に研究部会員を募り、年6回程度開催する。新しい試みとして、教育制度見学会を実施する。教育コンテンツの提供では、非製造業向けの講座を2回開催することなどが了承された。

品質管理委員会

■ 定例委員会

12月3日(木)、福村委員長はじめ委員15名が出席して、富山経協・研修室において開催した。

福村委員長挨拶の後、2015年度の事業活動報告と2016年度の事業活動計画(案)について審議を行った。

2015年度は、2014年度に引き続き、委員会活動の活性化をねらいに、定例委員会でのグループディスカッション、委員企業見学会の実施や講座の担当委員制実施等に取り組んだ。また、講座関係では、

担当委員からの報告と受講者アンケートの結果から、気付いた点、次年度に向けた改善点等について報告を行った。

2016年度については、基本的には2015年度を引き継いで進めていくこととするが、講座開催案内、受講者への意識付け、講座プログラムの改善に取り組んでいく。また、「方針管理実践講座」を「部課長実践講座」に名称変更することや「ISO9001 2015年版規格解説講座」(仮称)を新たに開催することとした。



最後に3班に分かれ、「イキイキと働くことにつながる目的・ビジョンを共有する秘訣」の課題を基に、活発なグループディスカッションを行った。

環境委員会

■ 定例委員会

12月1日(火)、矢野委員長はじめ委員16名が出席して、富山経協・研修室Aにおいて開催した。

矢野委員長挨拶の後、2015年度事業活動報告と2016年度事業活動計画(案)について審議した。

2015年度は、定例委員会の開催日に合わせ講演会を委員メンバー以外でも参加できるオープン方式で2回実施したこと、また、環境保全活動として、県が主催する「森・川・海」リレー清掃キャン

ペーンと北陸電力(株)グループの「森に恩返し活動」に参加したことを報告。企業訪問では、県内は(株)富山環境整備を、県外企業では福井鋳螺(株)加賀工場とセーレン(株)の三国町T P F事業所研究開発センターを見学したことを報告した。

2016年度については、基本的には2015年度を引き継ぎ進めていくこととするが、委員会活動の活性化をねらいに、委員の皆さまが事業に出席しやすくするため県外企業訪問を11月から6月に変更して



開催する予定を発表。

最後に、平成9年に作成した環境委員会の規則が産業廃棄物処理を中心に作成しており、時代に合わせ変更することの了解を得た。

■ 環境保全活動

10月17日(土)、北陸電力(株)グループの「水の恵みをありがとう！<森に恩返し活動>(富山地区)」に、当委員会から15名が参加した。

北陸電力(株)グループの従業員とその家族ら総勢140名が、白樺平(富山市亀谷地区)の山林において、雑木の伐採、下草刈り、ブナの苗木の植樹、キノコの植菌をした。当日は秋晴れの好天のもとで、汗ばみながらも無事に作業を終了



した。

「小さな苗が元気に育つように」と思いを込めながらの作業で、参加者全員達成感を得ることがで

きた。作業の後、参加者全員で植樹作業を振り返りながらお弁当をほおばり親睦を図った。

経営企画・IT委員会

■ 2015年度第3回委員会

12月9日(水)、松本副委員長はじめ委員7名が出席して県民会館8階において開催し、2015年度事業の進捗と2016年度事業案について審議を行った。

松本副委員長より、本年度は理事会特命テーマ「女性の活躍」の事業を県との共催により実施した。来年度は、会長より総会での「連合富山との対談」の企画を行うよ

う指示を受けている。本日は事業の進捗と2016年度事業について審議をいただきたいとの挨拶があった。

引き続き、事務局より①2015年度の実績と今後の予定、②県の「高度ものづくりマネジメント研修」の実績、③2016年度事業計画案を報告し、審議の結果、2016年度事業計画は事務局案で進めることが決まった。次回委員会は2016



年4月7日に開催する。

人事・労務政策委員会

■ 労働法実務講座（第3回）

11月18日（水）、「ストレスチェックの義務化と労働者のメンタル不調への使用者の対応のポイント」をテーマに、34名が出席して富山商工会議所ビルで開催した。

講師の第一共同法律事務所所属の伊藤昌毅弁護士から、2014年改正労働安全衛生法第66条の10に基づく、従業員数50人以上の企業でのストレスチェックの義務化の背景や目的、内容や仕組みについて講義を受けた。

近年の精神障害の労災申請の急増が法改正の一因となっており、

2006年度では819件の請求であったが、2013年度では1,409件、今後増加することが想定される。ストレスチェック制度は、①1次予防（メンタルヘルス不調の未然予防）、②労働者自身によるストレスへの気づきを促す、③職場環境の改善を主な目的とし、企業は、事前に衛生委員会等において、制度の周知方法、実施体制の整備などを構築し、今後1年以内ごとに1回定期的に、医師、保健師、一定の研修を受けた看護師、精神保健福祉士により実施しなければならない。また、実施に際しては、



労働者のプライバシーの保護、不利益取り扱いの防止、同意を得て自供を受けた情報、面接指導結果の記録は5年間しなければならぬとした。

■ 労務管理実務講座

11月19日（木）、全6回シリーズで開催した実務講座は、24名の参加者全員が修了した。

第1回では、豊本治高岡法科大学副学長が、労働法と企業の関係について、第2回、3回では作井法律事務所の小股清香弁護士が、労務管理上のトラブルを未然に防ぐためにはどのような対策をして

おく必要があるか、また万一労働紛争が起こった時は具体的にどのような対応を取ればよいか、第4回、5回では島崎裕美子社会保険労務士から労働保険、社会保険の実務と諸問題の解決策について、第6回では小股弁護士から近年矢継ぎ早に改正されている労働法をめぐる諸問題について学んだ。



教育委員会

■ 「事務・間接（スタッフ）部門の効果的な業務改善の進め方」セミナー

10月21日（水）、31名が参加して富山商工会議所ビルで開催した。

講師の渡辺季幸（一社）中部産業連盟主任コンサルタントは、事務、間接（スタッフ）部門の業務改善を進めるためには製造現場との違いを知り、仕事の量とスピードをコ

ントロールすることがポイントであるとした上で、ものづくりの改善手法を応用することで事務・間接業務の効率化・仕事の質の向上を実現するため、業務プロセス改善の着眼点や適用しやすい改善手法、タイムマネジメント、VMの基本的な考え方について具体的な事例を交えて解説した。さらに、グループ演習で改善の効果的な進



め方を検討し、参加者間の活発な意見交換を通して理解を深めた。



教育委員会

■若手社員活性化コース

10月14日(水)、明日を背負って立つ元気な若手社員の育成を目指す狙いで、2015年度新入社員及び入社後2～3年の若手社員を対象に49名が参加して、富山商工会議所ビルで開催した。

(公財)日本生産性本部 主任経営コンサルタントの太田昌宏講師から、①企業を取り巻く環境変化、

②仕事の進め方、③職場の問題解決、④コミュニケーションスキル、⑤これからのビジネスパーソンのあり方について学んだ。また、グループ演習では日常事例を用いて参加者同士で意見交換と発表を行い、P D C Aサイクルによる問題解決の技法の習得や、ブレインストーミングを取り入れた問題解決などを行ったほか、コミュニケー



ションスキルでは、「傾聴」の重要性を中心に5つのコミュニケーション技法を学んだ。

■管理職基礎コース

11月6～7日(金～土)、46名が参加して、インテック大山研修センターにて1泊2日で開催した。

講師の中間弘和(公財)日本生産性本部主席経営コンサルタントが、①管理者の役割と要件、②業績向上のマネジメント、③部下育成のマネジメント、④組織力強化のマ

ネジメント、⑤変革と推進のリーダーシップについて、具体的事例や自身の体験談を交えて解説し、グループディスカッションでは活発な議論が行われた。特に部下の育成については、目標管理や人事考課の目的と仕組みを確認するとともに、V T Rのケースを用いて部下指導のあり方や部下とのコミ



ュニケーションを検討した。懇親会では活発に異業種交流を行った。

参加者NOTES

教育委員会

「若手社員活性化コース」を受講して

救急薬品工業株式会社
研究開発部

宮崎幸太郎



現在の職場に入社して約半年が経過し、少しずつ環境と業務に慣れてきた一方で、自らが成長し社会に貢献するためにはどのように考え、行動するべきかを考えていたころ、太田昌宏先生の講義のお話を頂き受講いたしました。

太田先生は講義を始めるにあたって、「自分事として考える」ことと、「積極的に聴き、積極的に発言する」ことを意識して欲しいと仰っておりました。今回の研修ではグループワークを行う前に、イントロダクションとして同じグループの方の自己紹介を聞き、その方を他のグループメンバーに紹

介する他己紹介を行いました。今までの私は他人の自己紹介に対してメモを取ることは無かったので、聞いた自己紹介を「自らが伝える」こともありメモを取り、話す内容を考えてメンバーの紹介を行いました。私はこの体験を通して、自分事として考えることで行動が変化することを実感することができました。

また、後半のケーススタディではグループで話し合い、意見をまとめて発表する機会をいただきました。メンバーのそれぞれが議題を自分事として考え、積極的に意見を出すことで有意義な議論をす

ることができたと考えています。また、メンバーの意見を聴くことで自分にはない考え方、ものの見方を意識することができました。

私は本講義の中で、仕事の生産性を向上させるP D C Aサイクルについてのお話が印象に残りました。太田先生はP D C Aサイクルを回す癖を付けるために、やるべきことのリストを朝一番に書き出すことを推奨されていました。私は講義後、実際にリストに書き出し(P)、実行(D)と確認(C)を行い、残りを検討した(A)ところ、自然とサイクルを意識できるようになりました。

1日の研修を通して、自らが成長するためには自分事として意識し、自ら他者に対して積極的に働きかけていくことが大切であると実感いたしました。講義で学んだことを日々の業務と、自らの成長に生かしていきたいと思えます。

■コスト改善力実践セミナー

11月10日(火)、23名が参加して富山商工会議所ビルで開催した。

講師の小川正樹(株)ME マネジメントサービス代表取締役は、原価計算の基本的な考え方とコストダウンのポイントを紹介した。コストダウン実践活動について、①購入・外注価格低減による材料費ダ

ウン、②歩留管理・不良低減による材料費ダウン、③工数・設備効率向上による労務費ダウン、④ばらつき低減による製造経費ダウンの4つの切り口から、具体的事例を用いながら解説するとともに、参加者は演習問題を通して、コスト改善の進め方について理解を深めた。



■経理・財務の基礎セミナー

11月17日(火)、31名が参加して富山商工会議所ビルで開催した。

講師の渡邊智博 YKK ビジネスサポート(株)経営管理グループ長は、企業会計の一般原則や経理規定の目的と内容、経理と財務の役割などを説明し、経理の基礎について確認した上で、外部への報告を中心とする財務会計と、予算との対比を重視し、業績管理を支援する

管理会計の基本的な考え方について、メーカーのビジネスサイクルにおける具体的な例を交えて解説した。原価計算や予算の組み立てについては、実際の経理業務を想定したケースを用いた演習を通じて理解を深めたほか、内部振替価格の設定など事業部制における会計処理についても紹介し、これからの時代に経理部門が果たすべき役割についても検討した。



参加者NOTES

教育委員会

「管理職基礎コース」を受講して

株式会社 シキノハイテック
製造部 生産管理課 課長代理 米陀 英子



今回、課長クラスの管理者を対象とした1泊2日の「管理職基礎コース」研修を受講しました。私自身は、10月に管理職になったばかりで、管理職の役割や心構えなどよくわからず悩んでいましたので、とても良い機会でした。

研修は、「管理者の3大役割(業績向上・部下育成・組織力強化)の基本と実践を学ぶ」を中心に中間先生が話され、時折グループディスカッションを交えた内容でした。先生は、他の企業での具体事例や自身の体験談を交えて、分かり易く話をされました。

事例の中で、「これはできません」と言ったら、「何故できないのか」と問われ、「できない理由が解決したらできるようになるのだね」とどんどん追い詰められ、結局できた、という話がありました。私の業務は、納期管理をするのが主ですが、顧客の希望納期と現場の回答納期に常にギャップがあります。中には到底無理な希望納期や、当社の段取りの都合により納期を調整しなければならないなど、事情や理由は様々です。これらできない理由を述べることは簡単です。私も結果がでないとき、

できない言い訳ばかりを考えていましたが、『できない理由は、できる理由である』という言葉聞いて、自分の甘さを痛感しました。これからは、常に「『できない』とは言わない」心構えで、仕事に取り組み、まずはできない要因の本質を掴み、『できない』を『できる』に変えるために業務を行っていきたいと思います。

今回の研修で学んだ、管理職の使命と求められる要件を、改めて確認・理解し、理想の管理職に近づけるよう、努力していきたいと思います。

また研修が1泊でしたので、参加されていた他の企業の方々とお酒を飲みながら、異業種の事例や実情などいろいろな話ができて、有意義な時間を過ごせたと思います。ありがとうございました。

教育委員会

■「5S+目で見える管理」 活動実践セミナー

12月3日(木)、54名が参加して、富山商工会議所ビルで開催した。

講師の中井芳美(一社)中部産業連盟上席主任コンサルタントは、5S(整理・整頓・清掃・清潔・躰)は、ただ単に職場をきれいにするというのではなく、よい品質を作り出し、ムダをなくす職場

の基本であり、品質・納期・コスト・安全・環境・士気のすべてに効果が期待できるとした上で、目で見える管理とは「現場の状態が正常か異常か目で見てすぐ分かり、必要な手がすぐに打てる状態にすること」であるとし、現場での実践事例の紹介やグループ演習での意見交換を通じて、管理の進め方について理解を深めた。



品質管理委員会

■ISO9001内部監査員養成講座

11月10・11日(火・水)、60名が参加して富山県市町村会館で開催した。

国際規格であるISO9001は品質マネジメントシステムに関する要求事項を規定するものである。県内においても認証取得企業は多く、実施が義務付けられている内部監

査の要員養成も企業にとって避けて通れないところであり、2004年以降、本講座を毎年開催してきた。

講師にはMIWA MSC事務所代表の三輪昭氏を迎え、ISO9001規格のポイント、要求事項の解説、2015年度改訂概要など、受講生は慣れない言葉に苦戦しながら、内部監査員としての考え方、技能の



習得に必死に取り組んでいた。



参加者NOTES

品質管理委員会

「ISO9001内部監査員養成講座」 を受講して

東邦工業株式会社
品質保証課 係長

稲垣 美樹



私は、今まで ISO9001に関しては社内で行われている社外公的機関の定期審査や更新審査等には直接携わったことがなかったため、ISOの目的や規格、用語の意味を理解しておらず、今回の内部監査員養成講座を通して内部監査員としての知識だけでなく ISOの基礎知識もしっかり身につけることができたいと思いを講義しました。

講座の中ではグループディスカッションを行い不適合事例に対し

品質マネジメントシステムの要求事項においてどの項目に該当するのか、またどれだけの項目に該当するのかを広い視野で着目しなければならず、簡単には理解できるものではないとわかっていましたが ISO9001の難しさ、奥深さを感じました。

また、2015年版では「測定、分析及び改善」の予防処置がなくなるという規格の変更点があり、その中で「リスク」という新たな言

葉も明記されるようになったり、その他にも色々な変更点があったりしますが、まずは2008年版の内容を再確認し十分に理解したうえで2015年版を勉強していきたいと思いを。

そして改めて東邦工業の品質マネジメントシステムの内容を熟読することで、その重要性を理解し、内部監査員としての経験を積み重ね、この講座で学んだことを無駄にしないよう積極的に取り組んでいきたいと思いを。

最後に、今回受講にあたり講師の方と一緒に受講された皆様のご協力を頂きましたことに感謝したいと思いを。

品質管理委員会

■ 品質管理セミナー 実践しながら学ぶ

統計的手法活用講座

5月28日から富山経協・研修室において開講した「第59回実践しながら学ぶ統計的手法活用講座」は、11月26日(木)に14日間の全日程を終えて閉講した。

この講座は、企業の体質改善を進めるために重要な役割を担うスタッフ・技術者を対象に、問題解決に必要な統計的品質管理(SQC)の手法を学び、自職場での問題の解決を図るべく、その実践的な活用方法を習得することをねらいとしている。上司とキャッチボールのうえ職場の身近な問題をテーマに選定し、グループ別にカウンセリングを受けながら、品質管理手法を駆使して問題解決に取り

組み、その内容を研究論文にまとめて提出することが修了基準の一つとしている。

最終日となった11月26日には、先に開催された論文審査会で講師より推薦を受けた優秀論文3件の発表の後、受講者18名が修了証を手にした。また、講座全体を通して総合評価上位の2名が優秀賞を受けた。

〈優秀論文〉

中西昭之さん(アイシン軽金属)
平田哲郎さん(コーセル)
加藤みほ子さん(富山化学工業)

〈講師派遣等のご協力企業〉

アイシン軽金属(株)、コーセル(株)、(株)タカギセイコー
中越合金鋳工(株)、富山化学工業(株)



〈優秀賞〉

中西昭之さん(アイシン軽金属)
堂口秀昭さん(コーセル)



参加者NOTES

品質管理委員会

「実践しながら学ぶ統計的手法活用講座」 を受講して

アイシン軽金属株式会社
押出生技部 押出生技グループ

中西 昭之



私は押出事業部の生産技術部署に所属しており、押出および付帯工程の工程設計から設備調達、および量産工程の改善業務に携わっています。

弊社では配属から間もないタイミングで統計的手法を学ぶ機会があるのですが、当時は実務経験が不足していたことと、学んでから年数が経ってしまったこともあり、手法がうまく活用できているのかな、これで合っているかなと不安を感じる場面が幾度もありました。また、最近では直属の後輩が配属され、QCサークルのリーダーも務

めているため、指導をする場面が多くなってきており、もう一度基礎の部分から統計的手法を学び直したいと思い、上司からの勧めもあり本講座を受講致しました。

講義では、品質管理の歴史や背景、QCストーリー等の基本的な内容から始まり、管理図法、検定・推定、分散分析法などの専門的な内容まで幅広く学べ、様々な業種の講師の方々の実体験を交えた話を聞くことで、統計的手法を身近なものとして感じられ、理解を深めることができました。同時に、手法を活用することに“楽し

さ”を感じることができました。

研究論文では、学んだ手法をすぐに実際の業務と結びつけて活用することで、より一層理解を深めることができたと感じています。またグループディスカッションにて講師の先生や他の受講者の方に意見をもらうことで、自分では気づけなかった新しい視点からのアプローチを知り、手法活用の引出しを増やすことができたように思います。

今後はこの講座で学んだことを活かし、統計的手法を正しく活用して効率的かつ経済的な検証を行い、会社の利益に貢献できるような生産準備および改善業務を行っていきたいと思います。また、今回私が感じた統計的手法の“楽しさ”を、後輩やQCサークルメンバーにも感じてもらえるような指導を行っていきたいと思います。

品質管理委員会

■ 県外企業見学研修会

10月21～22日(水～木)の2日間の日程で、19名が参加して県外企業見学研修会を開催した。

初日は、デンソー本社とデンソー高棚技研センターを訪問した。本社では低炭素社会の実現をめざすスマートハウスHEMS実証棟を見学。住宅で発電した太陽光電力を含めた電気エネルギーをEVと住宅の間で最適に制御することができる。高棚技研センターでは工業学園、技能五輪選手育成、技能研修の教育現場を見学した。工業高校課程ではヤスリでミクロンの精度まで手作業で磨くことを行い、実際に自分の手技で体感して教育していた。また、技能五輪選

手課程では自ら学び、考え、挑戦することを実践し、自ら成長する教育を行っていた。世界最高水準のモノづくりも、人づくりに支えられているという実感を持った。

2日目は、デンソーでは日本最大の工場である西尾製作所を訪問した。409工場ではエアコン室内ユニットを月50万台生産しており、樹脂成型では金型交換を1分で行う「1分段取り」や「1発良品」、HVAC組立ラインでは小型無人搬送車からの部品供給を見学した。

午後からは安城市の超小型電気自動車カーシェアリング実証事業「き～☆モビ」を見学。安城市は市内の交通が不便で自家用車への依存度が高いため、CO₂排出量削



減や市街地の空洞化を解消する目的でデンソーが中心となって事業を運営している。

参加者は2日間の行程を通して、先進企業の教育体制と生産ラインを実際に目で見て体感することができた。また、参加者間での情報交換も活発に行われ、有意義な見学研修会であった。

参加者NOTES

品質管理委員会

「県外企業見学研修会」に参加して

株式会社 松村精型

自動車部品事業部 検査課 課長 八尾 嘉則



私は自動車部品製造の最終工程となる検査課に所属しており、日々発生する不良に対して鋳造部門と加工部門と協議し不良率を減らす事を課題として日々取り組んでいます。今回の研修会は「デンソー」様の工場や技研センターという事で、品質管理方法や人材育成などについて少しでも取り入れる事が出来ればと思い参加しました。

(株)デンソー様では、自動車部品で培った技術を生産機器や産業機器にも幅広くいかして取り組んでおられる展示コーナーを見学致しました。

(株)デンソー技研センター様では、高等科から卒業する時には即戦力となるよう訓練を行っておられま

した。安全に対する取り組みでは、ローラーやベルト、チェーンの巻き込みを実際に体験出来るような仕組みを作り、安全への意識付けをする工夫をされていました。また、どんなにロボットが進歩しても、最後は人の手を加えないと故障が多く、寿命が短くなるという事で、人材育成の大切さが分かりました。

(株)デンソー西尾製作所様ではカーエアコンの組付けラインを見学致しました。工場では少スペース化や無人化が進められておりましたが、それも改善によるもので、無人カートの移動範囲を狭くするために台車がほぼ直角に曲がれるよう工夫されていたり、ライン投

入も手作業だったものを回転テーブルを使用して無人化されていました。射出成形機では金型の交換から良品取り出しまで1分で完了する1分型替え1発良品出しを拝見。弊社においてもダイカストの金型交換時間短縮は課題の1つでもあり、今後何らかの形でいかせていければと考えております。

安城市役所様ではデンソー様と共同で推進されているCO₂排出ゼロの環境に優しい100%電気自動車を見学致しました。乗り捨てでカーシェアできる「き～☆モビ」サービスを行っておられ、市内の幅広い年代の方が利用され、登録者の増加と共に駐車場提供事業者も増えており、よりよい環境に取り組む姿勢が感じられました。

今回の研修会に参加させていただき製造現場での改善活動の取り組みや工夫が拝見でき、今後の社内活動にもいかしていきたいと思っております。他の参加者の方との交流も含め、良い経験となりました。

環境委員会

■ 情報交換会「先端企業見学会」

10月28日(水)、矢野委員長はじめ24名が参加して開催。環境関連の先端企業を見学し情報交換する「環境先端企業訪問」で、(株)富山環境整備を訪れた。

会社の沿革、事業内容、環境への取組み状況等の説明を聞いた後、

アグリ事業のトマト栽培やトルコギキョウ栽培をハウス内で見学、さらにリサイクル事業、産業廃棄物処理事業、収集運搬事業等の設備を見学し、循環型社会の実現を目指す同社の取組みについて活発な意見交換を行った。



■ 県外企業見学研修会

11月25～26日(水～木)の2日間にわたり、石川県加賀市と福井県坂井市に赴き、8名が参加して県外企業見学研修会を開催した。

製造過程の改革を続け独創的な技術開発企業としてパーツの微細化・高精度化を実現している福井鋳螺(株)の加賀工場では、綿密に管理された工場現場を見学し、参加者から様々の質問が出ていた。ま

た、創業以来、先進のイノベーションで進化しつづけるセーレン(株)のT P F事業所研究開発センターでは、同社の多種にわたる製品を実際に手に触れることにより高い技術力と当社が製品を通じて生活価値向上を目指していることを実感した。

日頃から環境経営に携わっている参加者にとって、今回の環境先端企業の取組みを直接視察する



ことは、非常に有意義な2日間であった。

参加者NOTES

環境委員会

「県外企業見学研修会」に参加して

株式会社 アイザック
環境事業本部 営業部営業一課 前田 和希



11月25日、26日に県外企業研修会が開催された。1日目に石川県の「福井鋳螺(株)」様、2日目に福井県の「セーレン(株)」様へそれぞれ訪問し、各社環境への取組みについて紹介をしていただいた。

1日目の福井鋳螺(株)様は、細呂木工場、加賀工場、能登工場、N L工場に生産拠点がある。工場の特徴としては、金型内製率が95%、設備内製率が90%といずれも高い内製率を誇っており、客先の要望に素早く答え、難しい注文にも対応出来る体制を整えていた。

今回は多量生産が可能な蛍光灯の口金ピン、HDD用ピン、携帯

電話に活用される二次電池ピンなどの製造を行っている加賀工場へ訪問した。まず、感じた事は「綺麗」である。ホテルにも似た内装は非常にインパクトがあり、生産工場とは思えない綺麗さを感じた。これまでの工場に対する見方が変わった5 S活動の徹底ぶりには新たな発見が多くあった。聞くところによると、5 S活動を行うための時間を設けて活動しているとの事。従業員一人一人の意識がこのような成果となって表れているのではないかと感じた。

2日目はセーレン(株)様に訪問し

た。総合繊維業であり、原糸から縫製までの一貫体制を整えている。その中でも今回はビスコテックスセンターを訪問した。ビスコテックスとは企画・製造・販売まで一貫した独自のデジタルプロダクションシステムとの事。この独自の技術を用いる事によって、通常発生する水の使用量やエネルギー使用量を最大従来の20分の1にまで削減が行える。また、1m、1着分のロットより生産が行えることから無駄な端材等が無いことも環境に優しい生産を行っているといえるとの事であった。

最後に、2日間の県外企業研修に参加し、各社の取組みを直接感じる事が出来た。各社とも積極的な環境負荷低減活動に取り組みされており、参考になる事も数多くあり、今後の活動に活かせればと考えた。今後も引き続き活動に参加していきたい。



表紙の花 カンツバキ

(富山県中央植物園 中田政司)

サザンカとツバキの雑種

冬の街に彩りを与えてくれる貴重な花木が、このカンツバキです。

「寒椿」という名前からはツバキの一種と思われるかもしれませんが、園芸的にはサザンカとツバキとの種間交雑に由来する品種群の中で、12月から2月の冬に咲く一群を総称してカンツバキ系と呼び、その中でも生け垣などに最もよく利用されている「勘次郎」という品種を指して、一般にはカンツバキと呼んでいます。

サザンカの野生種は温暖な九州や沖縄に分布し、秋から冬にかけて咲きます。一方、ツバキ（ヤブツバキ）は本州北部の海岸まで分布し、冬から春にかけて花を咲かせます。サザンカの花は平たく開いていますが、ツバキは筒状になっており、一番の違いはサザンカでは花弁が一枚ずつ散るのに対し、ツバキは萼と雌しべを枝に残して花ごと落ちることです。カンツバキの花は写真のように平

開しており、一枚ずつ散るので、サザンカの性質を強く持っていることがわかります。

カンツバキの枝は横に張り、刈り込みに強く、大気汚染にも抵抗性があることから、中央分離帯の緑化などにも使われていますが、ツバキと同様チャドクガの被害を受けるのが難点です。

季語の「寒椿」はツバキ

躑(つくばい)に落ちて紅張る寒椿

影島智子

寒椿落ちたるほかに塵もなし

篠田悌二郎

これらの俳句は「寒椿」を季語としていますが、落ちた一個の花が描かれており、花弁が一枚ずつ落ちる「カンツバキ」では情景が浮かびません。紛らわしいのですが、季語としての「寒椿」は園芸植物としてのカンツバキではなく、冬に咲く早咲きのツバキのことを指しています。

人材の確保・従業員の再就職をお手伝い!

事業の拡大・欠員補充等による
人員確保を行いたいとき

事業の整理・縮小等に伴い、
人員削減せざるを得ないとき

そんなとき、まっ先にご相談ください。



公益財団法人

since 1987

出向・移籍(転籍)の専門機関

産業雇用安定センター

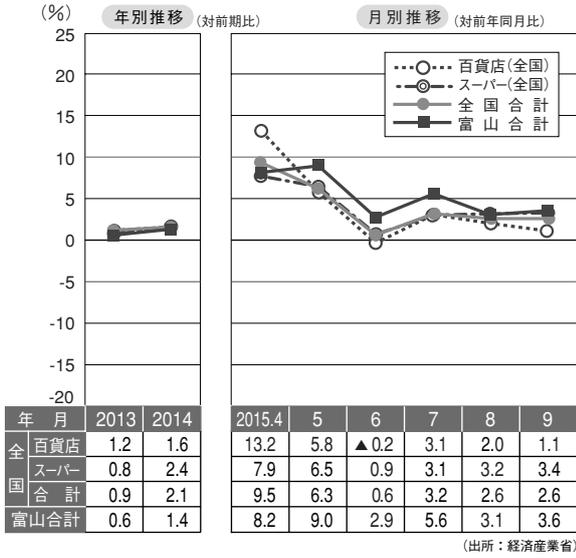
〒930-0857 富山市奥田新町8-1 ボルファートとやま10F TEL 076-442-6900

ご利用時間/9:00~17:00(土・日・祝日は休み) FAX 076-439-2860

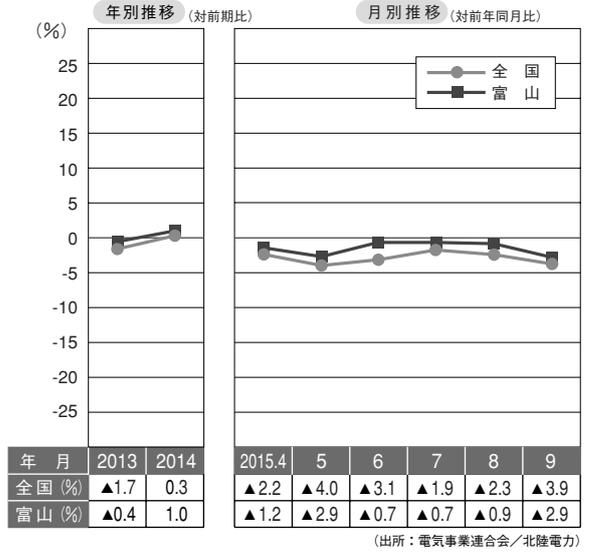
インターネットで最新の人材情報をどうぞ <http://www.sangyokoyo.or.jp/>

景況指標

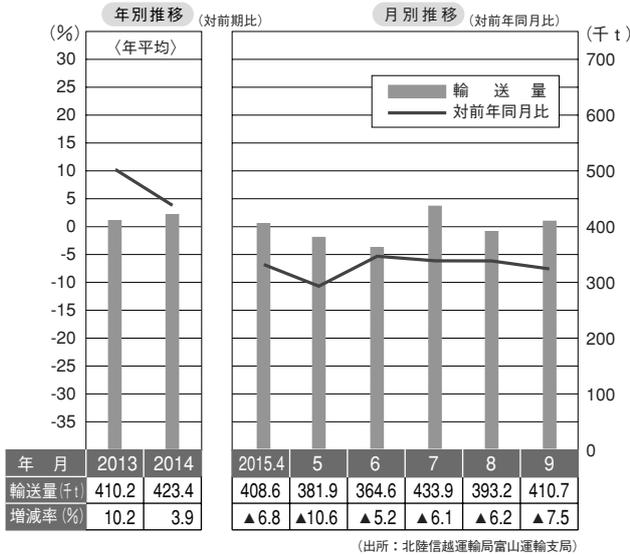
■百貨店・主要スーパーの売上高



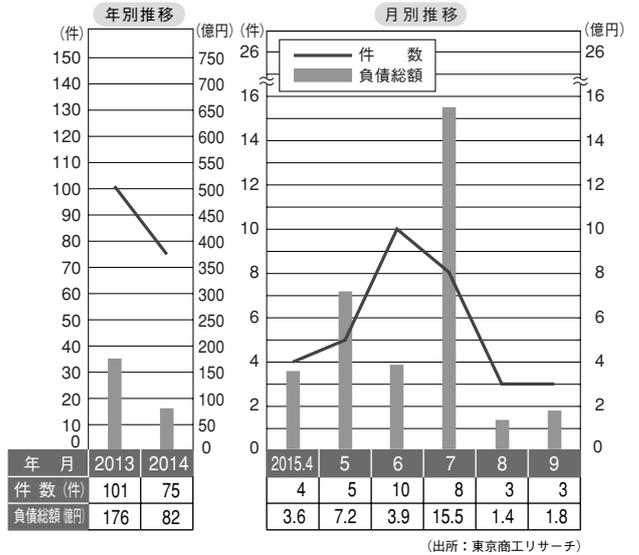
■大口電力消費量 (製造業計)



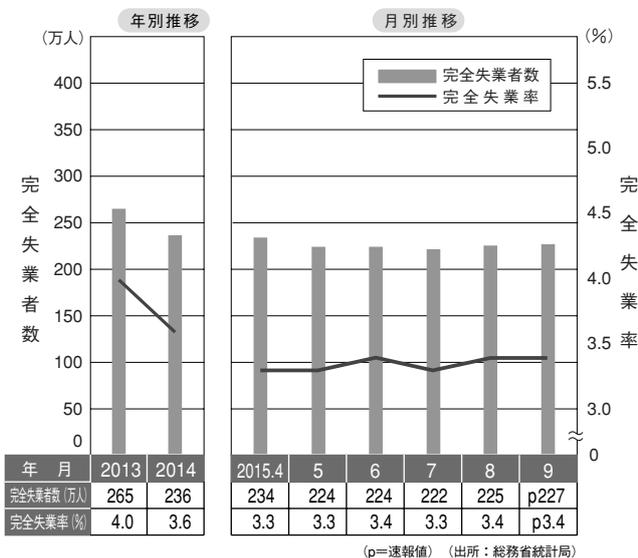
■一般貨物自動車輸送量 (富山県内)



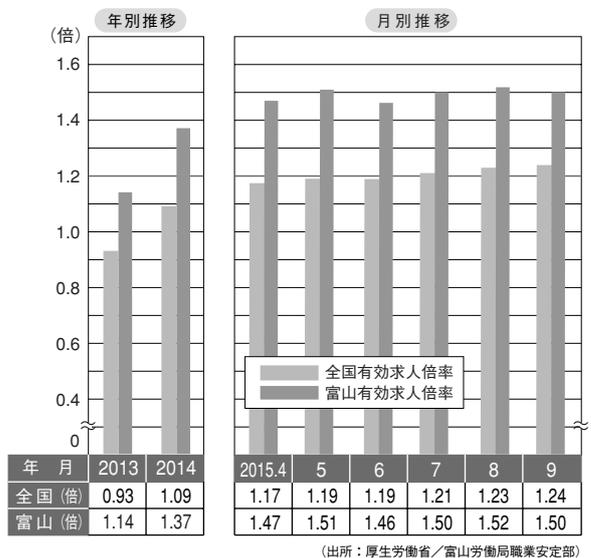
■企業倒産 (富山県内) (件数と負債総額)



■完全失業者数及び完全失業率 (季節調整値)



■有効求人倍率 (パートを含む季節調整値)



新春互礼会

(ご案内済)

日時：2016年1月4日(月) 16:00～17:30

場所：富山第一ホテル 3階 天平の間

富山市桜木町10-10 TEL.076-442-4411

県内経済5団体合同で開催します。

・(一社)富山県経営者協会・富山県商工会議所連合会・富山県中小企業団体中央会・富山県商工会連合会・富山経済同友会

幹事会

(別途ご案内申し上げます)

日時：2016年3月4日(金) 16:00～

場所：富山電気ビル 4階 光の間

富山市桜橋通り3-1 TEL.076-432-4111

<内容> 2015年度事業報告

事業予定

2015年12月16日～2016年2月29日

詳しくはホームページ (<http://www.toyama-keikyo.jp/>)
「講座・セミナー案内」をご覧ください。

	開催日	時間	事業名	委員会名	場所	備考
倉交流	1月4日(月)	16:00～17:30	新春互礼会		富山第一ホテル「天平の間」	上記「お知らせ」参照
会議	2月19日(金)	15:30～17:30	人事・労務政策委員会「定例委員会」	人事・労務政策	富山経協・研修室A	
	2月23日(火)	16:30～18:30	労働法関連法制研究部会(第4回)	人事・労務政策	富山経協・研修室A	
講座・セミナー	1月14日(木) 2月19～20日(金～土)	9:00～17:00	管理職マネジメント研修	教育	富山県農業総合研修所	
	1月21・28日(木) 2月4・18日(木)	9:00～17:00	品質管理入門講座<応用編>	品質管理	富山経協・研修室A	
	2月2日(火)	13:30～15:30	2016年労使交渉セミナー	人事・労務政策	富山経協・研修室A	
	2月16・17日(火・水)	9:30～16:30	第2回係長・主任実践コース	教育	富山県市町村会館	
	2月23日(火)	13:30～16:00	労働法実務講座(第4回)	人事・労務政策	富山商工会議所ビル	
	2月24日(水)	9:30～16:30	CS顧客満足基礎セミナー	教育	富山経協・研修室A	



「富山経協」vol.822

2015年(平成27年)12月号
2015年12月15日発行(隔月発行)

一般社団法人 富山県経営者協会

〒930-0083 富山市総曲輪2丁目1番3号(富山商工会議所ビル 別館5階)

TEL (076) 421-9588 FAX (076) 421-9952

ホームページ <http://www.toyama-keikyo.jp/>

Eメール info@toyama-keikyo.jp